

第13回 作業療法ジャーナル研究助成

岩田祐美氏の「活動・参加を促進する訪問作業療法の基準づくり」に決定



岩田祐美氏

過日、第13回 作業療法ジャーナル研究助成対象選考会が開かれ、岩田祐美氏の研究が選ばれた。岩田氏の研究テーマは「活動・参加を促進する訪問作業療法の基準づくり」である。助成期間は3年間であり、助成金額は30万円である。研究経過については、次年の本誌に掲載する。

第13回研究助成を受けての言葉

岩田 祐美

(聖隷訪問看護ステーション宝塚、作業療法士)

このたび、第13回作業療法ジャーナル研究助成を受けることとなりました、岩田祐美と申します。選出していただき誠にありがとうございます。

私は、大学院博士前期課程において、「活動・参加を促進する訪問作業療法の実践知」を研究しました。訪問作業療法に関する研究は、増加しつつも少ない現状にあります。また、文献の半数以上は事例報告であり、個別性の高さを示しています。このような背景の中、訪問作業療法に従事するOTが個々に習得してきた実践知を質的研究によって系統化しようと試みました。結果としてOTは、実践の理想像や規範をもち、それらを利用者と整合させるよう働きかけ、その過程を経てから活動・参加に向けた作業を導入するという

仮説が形成されました。

今回の研究テーマは、「活動・参加を促進する訪問作業療法の基準づくり」です。OTの皆様へインタビューを実施し、質的な分析を行う予定です。そして、OTの皆様の語りをその規範的観点や、理想像とOT自身との関係性等、さまざまな視野から訪問作業療法の「基準」として構築化したいと考えています。「基準」は、1人のOTが決めるのではなく、多くのOTの知恵により構築され、そして継時的に付加、変化していくべきだと思います。本研究が今後の訪問作業療法の発展の一助となるよう努力していきます。より多くの方のご意見をいただきたいと思います。皆様ご協力のほど、よろしくお願い致します。